

1. 3R推進団体連絡会による自主行動計画に基づく取組状況① リデュース 2p
- 3R推進団体連絡会による自主行動計画に基づく取組状況② リサイクル 3p
2. リサイクル手法毎のコスト構造 4p
3. 材料リサイクルの販売単価とポテンシャル 5p
4. 総合的評価制度における材料リサイクルの入札制度イメージ 6p

# 1. 3 R 推進団体連絡会による自主行動計画に基づく取組状況①

## ■リデュースの取組状況概要

素材	2015年度目標 (2004年度比)(※1)	2014年度 実績	2006年度から の累計削減量	備考
ガラスびん	1本当たりの平均重量で 2.8%の軽量化	1.4%	179千トン	
ペットボトル	指定ペットボトル全体で15% の軽量化効果	15.6%	517千トン	2015年度目標を 10%から上方修正
紙製容器包装	総量で11%の削減	10.1%	1,124千トン	2015年度目標を8% から上方修正
プラスチック製 容器包装	削減率で13%	13.9%	70.3千トン	
スチール缶	1缶当たりの平均重量で5% の軽量化	6.5%	175千トン	2015年度目標を4% から上方修正
アルミ缶	1缶当たりの平均重量で 4.5%の軽量化	5.0%	58千トン	2015年度目標を3% から上方修正
飲料用紙容器	牛乳用500ml紙パックで3% の軽量化(※2)	1.9%	685トン	
段ボール	1m <sup>2</sup> 当たりの平均重量で5% の軽量化	4.1%	1,667千トン	2015年度目標を 1.5%から上方修正

(※1) 各団体の目標値については、必要に応じて見直しを検討する。

(※2) 2005年度比。紙パック原紙の仕様レベルで比較。

(出所) 3 R 推進団体連絡会 第二次自主行動計画  
2015年フォローアップ報告 (2014年度実績)

# 1. 3 R 推進団体連絡会による自主行動計画に基づく取組状況②

## ■リサイクルの取組状況概要

素材	指標(※1)	2015年度 目標	2014年度 実績	備考
ガラスびん	リサイクル率 (カレット利用率)	70%以上 (97%以上)	69.8% (97.8%)	
ペットボトル	リサイクル率	85%以上	82.6%	
紙製容器包装	回収率	25%以上	23.6%	2015年度目標を 22%から上方修正
プラスチック製 容器包装	再資源化率	44%以上	44.8%	
スチール缶	リサイクル率	90%以上	92.0%	2015年度目標を 85%から上方修正
アルミ缶	リサイクル率	90%以上	87.4%	
飲料用紙容器	回収率	50%以上	44.7%	
段ボール	回収率	95%以上	96.7%	回収率の計算方法 を見直し(※2)

(※1) 各団体の目標値については、必要に応じて見直しを検討する。

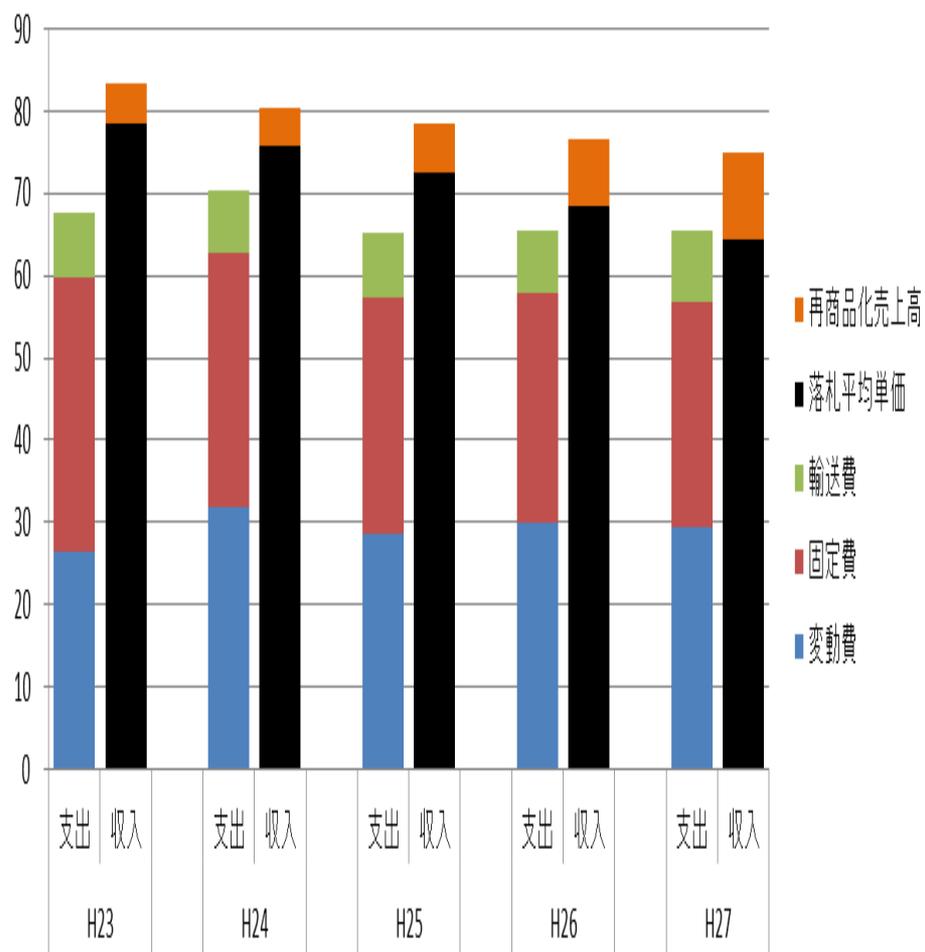
(※2) 回収物に含まれる異物の重量について、開梱調査の結果をもとに見直し(2014年度)。これにより回収率は従来よりも3~5%下がる。

(出所) 3 R 推進団体連絡会 第二次自主行動計画  
2015年フォローアップ報告 (2014年度実績)

## 2. リサイクル手法毎のコスト構造

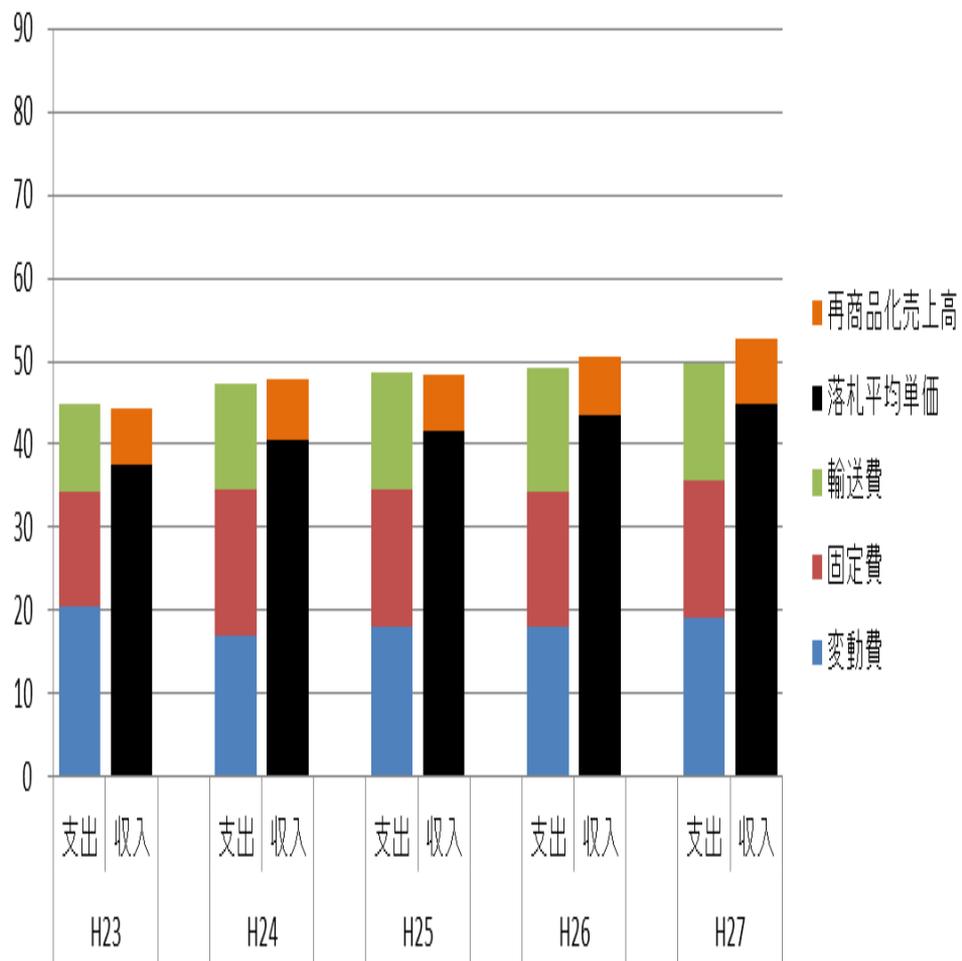
### 材料リサイクル

(千円/t)



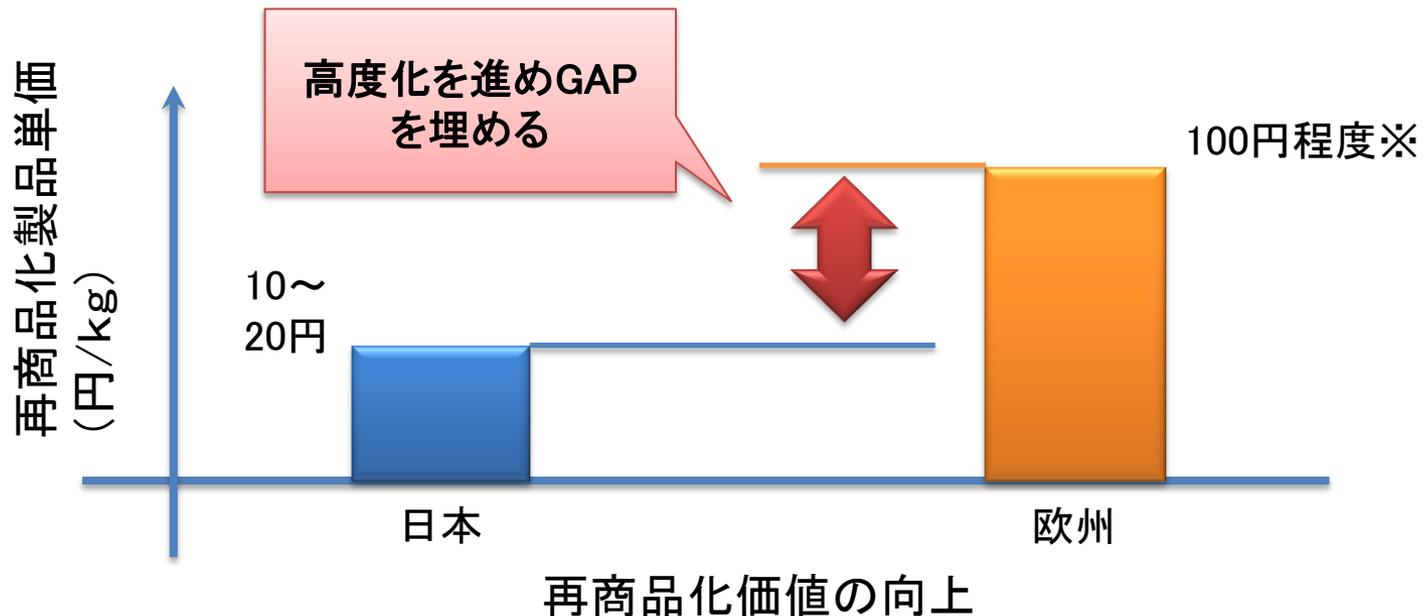
### ケミカルリサイクル

(千円/t)



## 4. 材料リサイクルの販売単価とポテンシャル

材料リサイクルについては、欧州では、プラスチックの再商品化製品単価が日本よりも高い。物性の安定化と品質等の違いはあるが、欧州並みに単価が向上するポテンシャルがある。

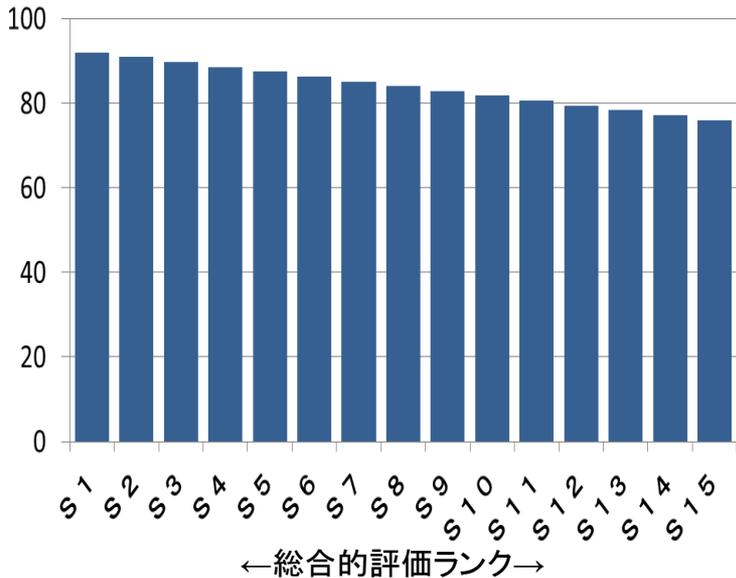


※ドイツの再商品化製品(ペレット)は、バージン樹脂の価格の55%から65%で取引されている。  
バージン樹脂(PP/PE)の平均価格を180円/kgとすると100円程度。

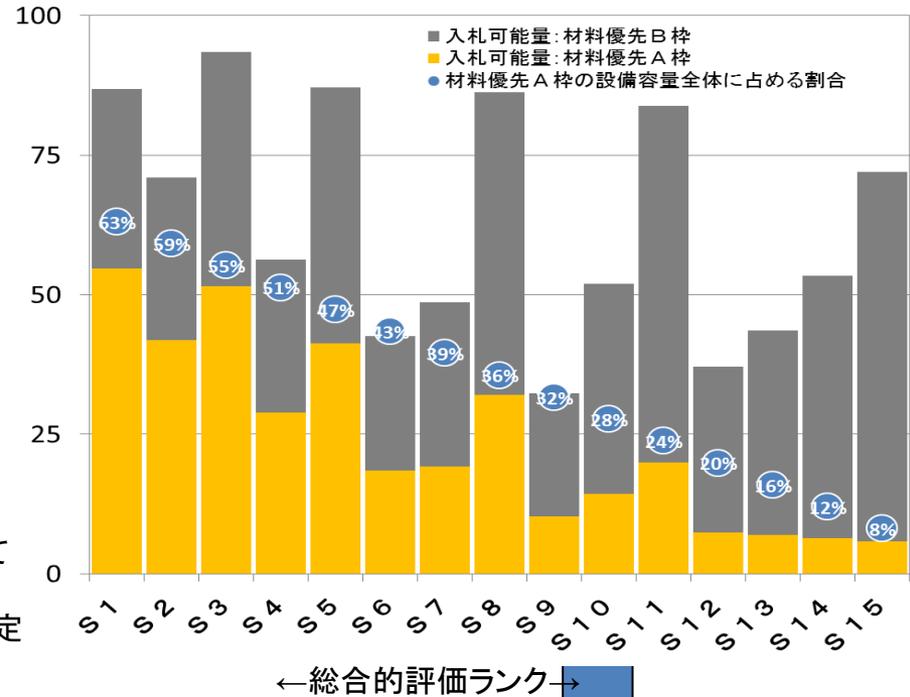
平成26年6月 産構審小委員会WG及び中環審小委員会第12回合同会合 資料2-1  
プラスチック製容器包装の再商品化及び再生材の需要拡大について から引用

# 4. 総合的評価制度における材料リサイクルの現行の入札制度のイメージ

総合的評価得点

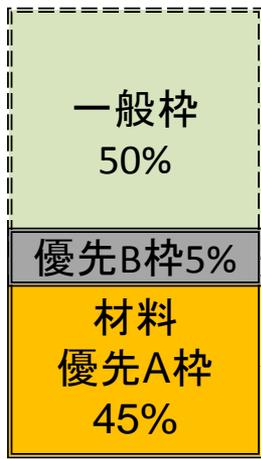


材料リサイクル事業者 入札可能量



総合的評価の結果を踏まえて入札可能量を指定法人が設定

容器包装廃棄物 (プラスチック)



材料リサイクル事業者 設備能力 (入札可能量)



A枠以外の材料リサイクル設備能力

優先A枠の入札可能量を優先A枠の容器包装廃棄物の1.05倍に設定。

競争倍率1.05倍